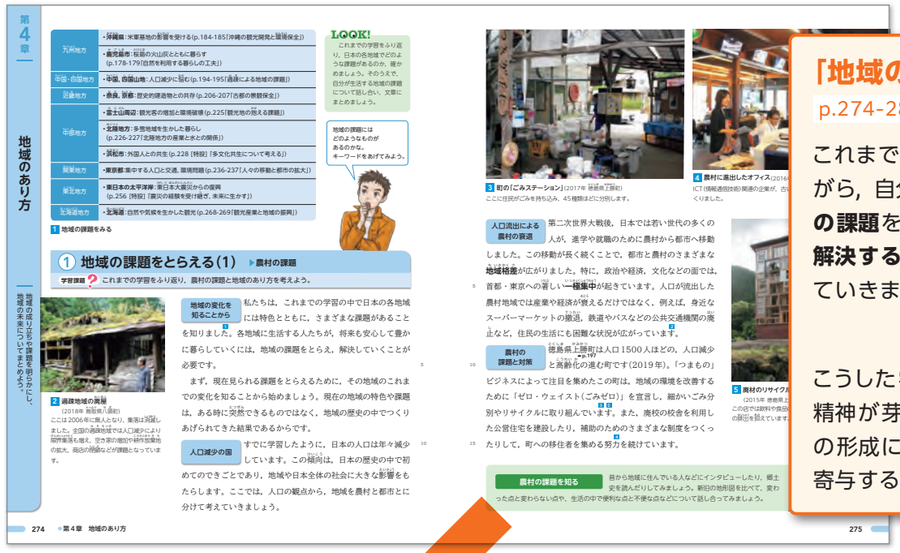
特色 2

持続可能な社会の実現に向け，課題解決に取り組むことができる内容の充実

1 主権者として社会に参画する意識を高めることができる教材・内容

生徒が，自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚，責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や，持続可能な社会の創造を目ざそうとする意欲を高めます。



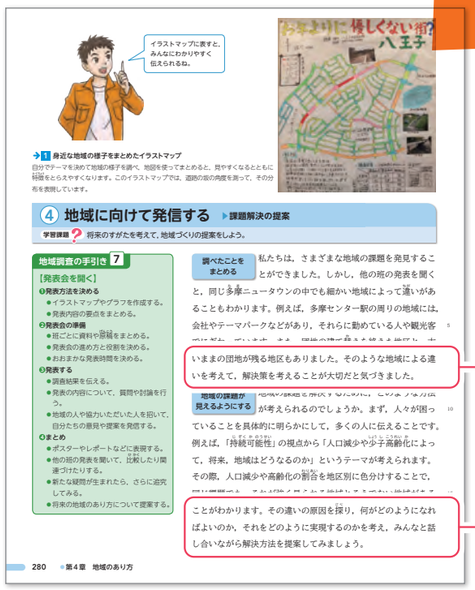
▲ p.274-275

「地域のあり方」

p.274-281

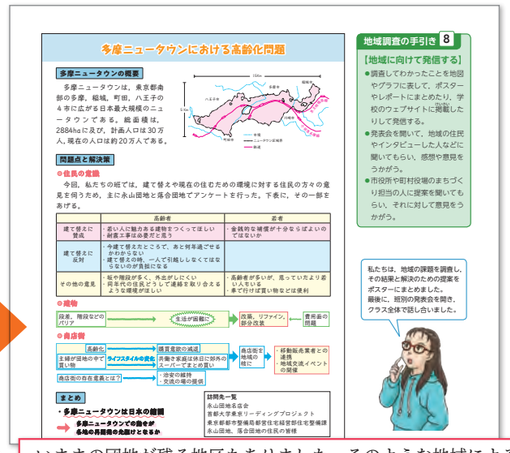
これまでの学習を振り返りながら，自分たちの暮らす**地域の課題**を見つめ直し，**課題を解決する**方法を**考察・構想**していきます。

こうした学習を通じ，公共の精神が芽生え，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度が養われます。



▲ p.280

p.281 ▶



いままの団地が残る地区もありました。そのような地域による違いを考えて，解決策を考えることが大切だと気づきました。

ことがわかります。その違いの原因を探り，何がどのようになればよいのか，それをどのように実現するのかを考え，みんなと話し合いながら解決方法を提案してみましょう。

「地域のあり方」は，地理的分野の総まとめです。

① **地域の課題をとらえる(1)**：学習を振り返り，農村を例に，「過疎」の視点から地域の課題に迫ります。
② **地域の課題をとらえる(2)**：学習を振り返り，都市を例に，「過密」の視点から地域の課題に迫ります。
③ **地域の課題を調べる**　：自分の暮らす地域を例に，「高齢化」をキーワードに地域の課題を調べていきます。
④ **地域に向けて発信する**　：調べたことをまとめ，地域の将来のすがたを想像し，地域づくりの提案をします。
➡ 成果をポスターにまとめたり，発表会を開いたりして，望ましい地域のあり方を提案します。

特設ページ

世界の各州や日本の各地方の事例を基に，地域の成り立ちを取り上げて歴史的分野との関連を図ることができる話題や，**地域づくり**や多文化共生から**社会参画**や**持続可能な社会**などを考えることができる話題など，今知っておきたいテーマをピックアップして展開していきます。

Q 個人やグループで学びを深めることができる問いの「Q」を最後に設けて，さらに学びの深化を促します。

高齢化をテーマに，過疎地域の抱える課題を考える
高知県四万十町を例に，本時で扱った「六次産業化」を扱い，「過疎地域のこれから」について学習を深めることができる内容です。【p.200】

フランスパンから，アフリカの歴史を考える
生徒の身近なものから，地域の「なぜ?」を掘り下げます。【p.90】

〈特設ページ・ラインナップ〉

◎「地域から世界を考えよう」(世界のさまざまな地域)
◇シンガポールはいま(アジア州) p.64
◇EU統合の**課題**(ヨーロッパ州) p.80
◇アフリカの歩みと**課題**(アフリカ州) p.90
◇世界に展開する軍事力(北アメリカ州) p.104
◇国境を越えて移動する人々(南アメリカ州) p.116
◇変わる太平洋の島々と暮らし(オセアニア州) p.126
◎「現代日本の課題を考えよう」(日本のさまざまな地域)
◆公害を乗り越えて(九州地方) p.186
◆**持続可能**な地域づくりを考える(中国・四国地方) p.200
◆林業と**持続可能**な未来(近畿地方) p.214
◆**多文化共生**について考える(中部地方) p.228
◆都市特有の**課題**について考える(関東地方) p.242
◆震災の経験を受け継ぎ，**未来に生かす**(東北地方) p.256
◆アイヌ民族の文化に学ぶ(北海道地方) p.270

2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ，考察することができる教材・内容

生徒が，現代や過去の社会的事象について，資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察することができ，情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養えます。

地理的分野とSDGs（持続可能な開発目標）

世界地誌の学習（p.47-128）では，章の導入ページで，州ごとの主題とともに，**SDGs（持続可能な開発目標）**の17の目標と関連する特徴的な**地球的課題**を扱うことを示しています。例えば，北アメリカ州の学習では，導入ページ（p.92-93）で「北アメリカで学習する地球的課題」として，「**多民族の共存**の問題」を取り上げ，該当ページ（p.100, 102-103）を示して導き，SDGsも意識しながら学習がより深まるように工夫しています。

◀ p.IV

〈地球的課題・ラインナップ〉

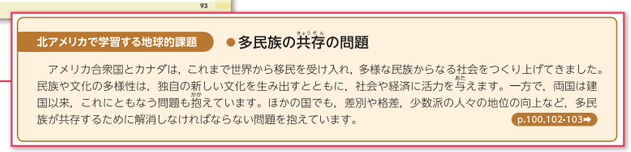
◇人口問題（アジア州）　p.54-55
◇環境問題（ヨーロッパ州）　p.76-77
◇人口・食料問題（アフリカ州）　p.87-89
◇多民族の共存の問題（北アメリカ州）　p.100,102-103
◇環境・都市問題（南アメリカ州）　p.111-115
◇多民族の共存の問題（オセアニア州）　p.121,123-125

▲ p.92-93

導入ページ　【p.92-93】
写真資料（赤枠）から関心を高め，該当ページに導きます。

▼

該当ページ　【p.102-103】
各州の地球的課題について，しっかり掘り下げて扱います。SDGsを想起しながら学習を掘り下げていくことも可能です。

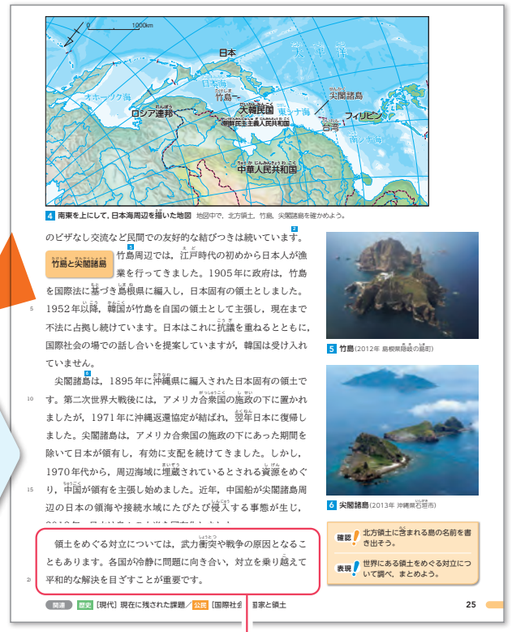


領域をめぐる問題

見開き4ページを配当し，日本の領域に関する基礎的な学習から，北方領土，竹島，尖閣諸島といった日本の領土をめぐる対立や現状についてしっかりと学べるように，多彩な資料と丁寧な記述で理解を深めます。

日本の国土の広がりから

日本の領域の特徴をとらえ，**領土・領海・領空**の区分など，基礎的な知識をコンパクトに学習します。【p.22】



日本の国境をめぐるさまざまな動きを学習します

北方領土，竹島，尖閣諸島については，これまでの動きや現状について豊富な写真資料とともに記述しています。地図についても位置関係がとらえやすいように，日本海を中心に描いたものを掲載しました。【p.25】

「EU統合の課題－多様性をどう考えるのか」【p.80】

領土をめぐる対立については，武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い，対立を乗り越えて平和的な解決を目ざすことが重要です。

関連　歴史［現代］現在に残された課題／公民［国際社会］国家と領土

多面的・多角的な視点からとらえる

例えば「ヨーロッパ州(p.66-81)」では，EUを中心に「国々の結びつき」を扱いますが，一方でイギリスのような**EU離脱**（p.71「地理の窓」）などの動きや一国内に見られる**独立運動**（p.80特設ページ）などにも触れました。物事を一面的にとらえるのではなく，情報を批判的に読み解き，**多面的・多角的**に考察する力が身につくように，各所で工夫を凝らしています。

3 身近な地域から社会を考えることができる教材・内容

地理的分野で大事にしたい「身近な地域の学習」については，生徒自らが地域調査に臨めるような工夫だけでなく，地域の伝統文化を大事にしている事例や，地域で進んでいる多文化共生のすがたを取り上げ，学習を深めていきます。

身近な地域を調査する

「**地域調査の方法を学ぼう**(p.133-146)」では，防災を主なテーマに地域を調べていきます。班ごとにテーマを決め，資料収集を行い，地域の歴史を探ります。また，地形図の読み取り，新旧の地図の比較やグラフの作成方法などの地理的技能も学びます。一般的な調査過程に沿った記述と，名古屋市をモデルとしたより具体的な記述の二種類で地域調査に取り組みやすいように，生徒の目線に立ったパラレルなストーリーが展開します。

生徒による調査過程を再現する構成・記述
調査活動のモデルケースを示しており，どの地域でも学びやすくなっています。

地域調査の手引き
調査活動に必要な視点と方法については，特に強調して示しています。

▲ p.136-137

p.226 ▶

地域の伝統文化を大事に

地域の伝統文化の現状はもちろん，「なぜ文化が受け継がれてきたのか?」にまで踏み込んで，**地理的分野ならではの伝統文化**を丁寧に描き出しています。特設ページでは，**アイヌ民族の文化**も扱っています。

多文化共生社会を見つめて

good

南アメリカ州(p.106-117)では，日系の人々の生活を取り上げています。一方で，日本の中部地方の特設ページ「**多文化共生について考える**(p.228)」では，現代の日系人の暮らしを描きました。関東地方でも国際化に触れています。**多文化共生社会**に注目したテーマを多く取り入れました。

日系人の花田さんの話

日系人の農家が，1970年代にアマゾン川河口に近いトメアスで，環境に負担の少ない農業を始めたと聞いています。数種類の農作物や樹木を混ぜて植えることで，絶えず収穫があり安定した収入をあげながら，森林を保全する農法で，アグロフォレストリーとよばれています。暮らしを支えるとともに環境を保全する持続可能な農法として注目され，国際協力機構(JICA)も支援しています。アグロフォレストリーで栽培されたカカオを使ったチョコレートは，日本でも発売されているそうですよ。

▲ p.113

地域の人々の声
世界地誌・日本地誌の学習を中心に，そこに暮らす人々の話が織り込まれています。臨場感あふれる内容になっています。

「多文化共生について考える」【p.228】
ブラジルから来て日本で暮らす外国人の現状を描いています。

事例地域における調査活動をリアルに表現した，ストーリー展開重視の記述

▲ p.270-271